

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3371100433		
法人名	(株)メディカメント		
事業所名	グループホーム いやしの家 備前2		
所在地	岡山県備前市伊部323-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

一日の始まりは車いすの方、歩ける方みんなで玄関に出て体操から始まります。そのあと歌を歌ったりゲームをしたり10時のお茶まで外気浴をしながら過ごします。敷地が開放的で広いので散歩をしたり、家庭菜園の草取りや収穫など思い思いの時間を過ごされます。秋には芋ほりが恒例になり毎年のお楽しみ行事の一つになっています。いつも元気な笑い声の聞こえるホームです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3371100433-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3371100433-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成27年12月3日		

開設当初近隣が介護施設の必要性を理解出来ず地道に努力した結果、徐々に地域から受け入れられ、今年から開催している手芸教室にも参加してくれている。地域交流の努力を外部評価で毎年確認していた為、私達もこの結果を手放しで喜んだ。職員ヒヤリングで教えてもらったが、職員が病気療養で1ヶ月休職していた時、絶対に復職したいと考え、日々療養に努め、今は復帰されている。「肉体を酷使する仕事を継続したいと思う理由は」と聞くと、人間関係は良好で、管理者は自分の仕事ぶりを認めてくれ、働くのが楽しいからと。10年間努力した結果、地域・利用者・職員から愛される事業所に成長している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念を掲げ二か月ごとのカンファレンスで確認している。	3か条ある理念の中で「基本的人権の保護」を一番重要視してケアに努めている。利用者9名をひと括りと考えず、一人ひとりの個性を受けとめ、人格を大事にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催しに参加するなど少しずつ交流が増え今年は手芸教室を始め地域の方にも参加していただいている。	開設10年を迎えようやく地域との繋がりが深まった。今年から始めた手芸教室を近隣にも案内し、毎回何人かが参加している。また、絵手紙サークルの方自らが、作品を事業所の玄関に飾ってあると宣伝してくれ、近所の方が見に来る。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎年夏休みに中学性のボランティアの受け入れ、認知症のかたの理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事、入居状況などを報告している。	管理者は運営推進会議への参加依頼を躊躇してしまい、開催が出来ていない事実を反省し、来年からリーダーに担当してもらい、確実な開催を心に誓った。	来年から運営推進会議の確実な実施が実現することに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空き情報を報告している。	行政との調整は本社が行い、全体会議で詳細を伝達してくれている。行政が発足した「グループホーム協議会」に毎回参加し、備前市内の事業所と協力し、待機者が困らない様連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しないケアは正しく理解しており、疑問に思うときにはみんなで話し合える体制を持っている。	利用者の行きたい所・したい事を制限しないケアに努めている。日中・夜間を問わず徘徊する利用者と常に行動を共にし、勝手に他室へ入室しないように努めた。また帰宅願望の利用者には、自宅へ一緒に出掛け、思いを尊重している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などの機会があればできるだけ参加するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な時に活用できるよう機会があれば研修などに参加するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、契約時にはゆっくり時間をかけ家族が聞く側だけにならないように気を配っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活の様子を知っていただくためにわかりやすく記録を書き家族が意見や要望をあらわせるようにしてそれを運営に反映させている。	開所当初、職員によって言うことが異なるとの意見があり、面会時に介護日誌を読んで疑問点を質問してもらうことにした。毎年敬老会を兼ねた家族会を実施していた所、予定を空けるので早目に日程を教えて欲しいと連絡があった。家族会が定着したと喜んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日ごろの勤務の中で聞いた意見や要望は会議にあげ検討してもらっている。	管理者と職員は、昼食後から13時30迄の休憩中、お菓子を食べながら何でも話す。管理者が信じて任せてくれ、いけない所は注意してくれるので、居心地が良いと職員ヒヤリングで聞いた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要望、希望を把握し整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務調整などで協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	備前市独自の「グループホーム連絡会」で研修会や見学会を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安の多い初期には声掛けを多くしたり、席は他の方との相性にも気を配るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にはゆっくり時間をかけ今までの生活の中で困ったことを聞き、初期には入居の様子を細かく報告して安心していただくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望するサービスを見極め相談しながらできる限りの対応に努める努力を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士との関係を築いている	生活を共にする者同士としてできることは手をださずゆっくり見守る。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時には介護記録に目を通していただき実情に合わせた支援ができるよう希望を聞いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に訪問できるような雰囲気作りにつとめている。	面会者は多い。訪問当日も何組かの訪問者が居た。獅子舞と一緒に舞っていた友人が面会時、獅子舞を持参し悪魔祓いしてくれた。以前から通っていたデイサービスに、毎週出掛けるのを楽しみにしている利用者も居る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や相性を見極め孤立しないように気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に今後の支援や相談を伝えている。終了後も訪ねて来られる方や紹介してくださる方もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で希望や思いを捉え本人本位の支援を心掛けている。	過度の訴えもまたと思わず、要望に応じている。自分を一番構って欲しいと願っている利用者が、他の利用者を気にかけて寝た時は、何度も居室に声をかけに行き、出てきた時は「出て来てくれてありがとう」と喜ぶ姿を見せている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	時間配分など今までの生活歴でできるサービスを把握し取り入れるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の個人記録をもとに申し送りして把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状をしっかり把握し介護計画を家族の意見も聞いて作成している。	変化が無い時は、1年に1度見直しをしている。ミーティング時にカンファレンスを行う。家族への説明は郵送でなく、必ず面と向かって口頭で説明し、意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に専門用語を使用せずわかりやすく記録し日ごろから情報交換し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のレベルに合わせてその都度柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で自分らしく暮らしていけるよう地域の方との交流を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の判断で納得のいく医療を受けられるよう支援している。	往診前日に利用者の様子を細かく書いた連絡シートをFAXしたり、調子が悪い時には採血キットを持参してもらおう等、体調管理に努めている。隣接するユニットの往診日に体調が悪い利用者が居れば、診察してくれるので、医療面は安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護で報告、指示、主治医への連絡など利用者が適切な受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月二回の往診で早期入院、早期退院を医療機関と相談し安心して治療が受けられるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの説明をして同意書ももらっている。重度化した場合は、再度家族、医療関係者で話し合っている。	医療行為が必要になる迄は、利用者と家族が希望すれば終末期の対応をしている。入院を嫌がる利用者の家族が直接病院と交渉し、事業所に戻って来た。病院は、夜間時カルテを入院病棟に渡してくれ、いつでも受け入れ可能な体制にしてくれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡、対応を掲示し、定期的に確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回昼、夜間想定で避難訓練を行っている。	災害時、火災受信機の操作と通報を最重要視した避難訓練を実施している。法人グループでの会議時に、他事業所の実体験を教えよう等、災害対策の意識向上を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声の大きさ、場所に気を配り対応している。	排泄介助を嫌がる利用者には、遠巻きから見守りをする。利用者同士の些細ないさかいは、注意すると更にエスカレートするので、どちらの肩も持たず、話を上手く変えている。尿取りパットを嫌がる利用者には、薄めのパットを使用してもらい尊厳を守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり丁寧にわかりやすい言葉で働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	細かい決まりを作らず、その日の様子を見て決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一度の訪問内容があり、行きつけの美容院も利用できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力にあった準備や後片づけを一緒にしたり、食べ方も思い思いに食べていただき、介助より見守り重視で食事を楽しんで頂いている。	市場から直接仕入れた魚屋から週2回購入したり、日生の青果市場で野菜を箱買いし、新鮮で美味しい食材を手に入れている。外食する機会はほとんど無いが、利用者の食べたい料理を聞き、スーパーや魚屋で購入する。戸棚からアルコールスプレーを取り出し、食卓を綺麗に拭いている利用者も居る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶だけでなく、しっかり水分摂取できるよう、いろいろな飲み物を用意して水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ずそれぞれの口腔状態に合わせた口腔 ケアをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位の取れない方も日中はおむつははずし、トイレでの排泄を基本としている。	日中はトイレでの排泄が尊厳の保持と考え、おむつは使用しない。ポータブル使用を嫌がる利用者には、夜間もトイレ支援に努めている。リハビリも兼ね、少し遠回りしてトイレに行く。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足にならないように、お茶以外のものも楽しんで飲んで頂けるよう用意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隔日の入浴でゆっくり湯船に浸かっていただくよう一人ずつの入浴にしている。	湯船に浸かると芯から温まるし、硬直した体をほぐす為、重度の利用者も入浴してもらう。手のひらに垢が溜まり臭いがつくならない様、広げて丹念に洗っている。昔から使用している椿オイル等を継続利用したり、入浴後はパスタロンにて保湿ケアにも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣があるので一人一人の生活リズムに合わせて気持ち良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	くすりの効能、副作用など薬剤師の指示、指導で確実な服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力を把握し、。本人の張り合いや生きがいにつながることの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感のあるお花見に行ったり地元のお祭りに出かけ外部のかたと触れ合えるようしえんしている。	花好きな利用者が多く、季節の桜・藤・コスモス・バラ等の花見に出かけ楽しむ。事業所の直ぐ近くで行われる「備前焼まつり」の醤油ソフトクリームをいつも楽しみにしている。なかなか散歩に出掛けられないので、気候の良い日は玄関で毎朝歌を唄い体操をする。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて買い物に同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にやりとりできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節お花を飾ったり、飾りを作って飾ったり一緒に作って楽しみながら工夫をしている。	玄関を入ると、壁面に飾られた絵手紙の作品が迎えてくれる。花好きの利用者の為に、親戚が持参してくれた庭で出来た花を、備前焼の花瓶に活けている。職員と利用者が一緒に作成したクリスマス作品が至る所に飾られ、事業所はクリスマスムード一色だった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳、ソファー、それぞれ思い思いに過ごせる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの好み、使いやすさなど工夫していただいている。	保育園児からもらったクリスマスリース、自作の籠、自らオアシスに活けた花等が、居室に彩を添えている。入院中に早期退院を願い利用者全員で作った千羽鶴も飾られていた。各居室に空気洗浄機が設置され、感染防止に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室に迷わず行けたり、安全に移動ができるよう障害となるものを置かないようにしている。		